

事業報告書

第7期

平成29年4月～平成30年3月分

社会福祉法人マイクロ福祉会

目 次

I. 理念	2 ページ
1. 沿革	
2. 組織	
3. 職員体制	
4. 法人及び施設の概要	
5. 法人役員（理事・監事・評議員）	
6. 平成 29 年度理事評議員会の開催状況	
7. 評議員選任・解任委員会	
8. 第三者委員	
II. 平成 29 年度事業活動報告	7 ページ
1. 法人事業報告	
2. 法人の主な取組	
・法人事務局の重点課題に対する報告	
・就職フェア等の参加状況	
・セミナー研修等の参加状況	
3. 特別養護老人ホームまごころ園 事業報告	10 ページ
（まごころ園全体の重点課題に対する報告）	
・年間行事企画	
・地域交流ホール開放状況	
・施設見学状況	
・ボランティア受入状況	
・実習受入状況	
・職員内部研修	
・職員外部研修	
4. サービス事業成果／特別養護老人ホーム	14 ページ
（特別養護老人ホームの重点課題に対する報告）	
・入居者状況	
5. サービス事業成果／ショートステイ	16 ページ
（短期入所生活介護（介護予防含む）の重点課題に対する報告）	
・利用者状況	
6. サービス事業成果／居宅介護支援	18 ページ
（居宅介護支援事業所の重点課題に対する報告）	
・利用者登録状況	
・職員研修、勉強会	

I. 理念

基本理念

心はずむ・やさしさの輪

事業理念

私たちは、高齢者とそのご家族（お客様）に、ま心を添えた最適なサービスを提供し、お客様のライフスタイルを第一に考えたサービスの実現を安定的に継続させ、豊かな地域社会の発展に寄与します。

行動指針

私たちは、一流の介護スタッフとして進んで働きます。

高齢者（お客様）の尊厳を遵守し、5つの指針を実践します。

1. お客様が自立されることを望み、喜びとします。
2. お互いが感謝の念を持ち、安心・安全な介護サービスの提供を行います。
3. 挨拶からスタートすることを大切にし、明るく楽しい空間を創造します。
4. 個性の尊重と信頼し和える人間関係で、環境の改善に努めます。
5. 積極的にトライし、新しい価値を生み出します。



私たちは、仕事を通して夢と希望と幸せを追求します。

事業指針 7つの約束

ご利用者様へ

1. 安心・安全を安定して提供する
2. 快適な生活感を演出する
3. 楽しみと感動を創造する

スタッフ同士で

4. やる気を尊重する
5. コミュニケーション能力を高める
6. 地域社会へ参加し貢献する

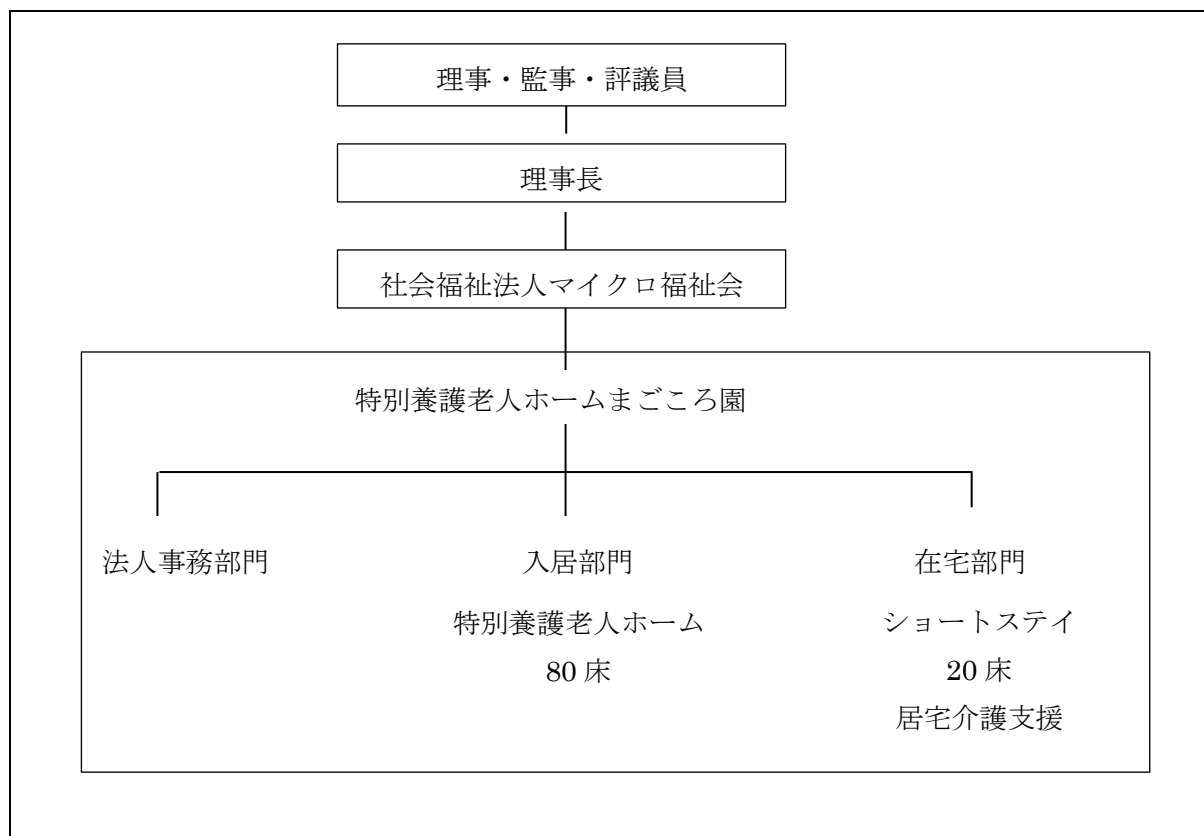
すべてに

7. 感謝の念を持つ（ま心、心を添えて）

1. 沿革

年	月	歩み
2011年 (平成23年)	12月13日	社会福祉法人マイクロ福祉会 設立
2012年 (平成24年)	1月15日	第1期開始 第1回理事評議員会の開催 理事長 三浦靖憲 就任
2012年 (平成24年)	12月27日	特別養護老人ホームまごころ園 開設 (特養80床 ショートステイ20床(予防含む))
2013年 (平成25年)	12月16日	第2期 理事評議員会の開催 理事長 伊藤弘子 就任
2014年 (平成26年)	12月22日	公益事業 居宅介護支援事業 認可 まごころ園居宅介護支援事業所として開設

2. 組織



3. 職員体制 (常勤職員：61名、非常勤職員：37名)

<法人事務局部門>

職種	人数	常勤 / 非常勤	専従 / 兼務
事務局長	1名	常勤	兼務
事務局次長	1名	常勤	兼務
事務職員・宿直者	7名	非常勤	兼務

<入居部門(特別養護老人ホーム)>

職種	人数	常勤 / 非常勤	専従 / 兼務	
管理者<施設長>	1名	常勤	兼務	
施設課長	2名	常勤	兼務	
生活相談員<生活援助主任>	1名	常勤	兼務	
介護支援専門員	2名	常勤	専従	
管理栄養士	1名	常勤	兼務	
介護職員	60名	8名	常勤(ユニットL)	専従
		28名	常勤	専従
		3名	常勤	兼務
		21名	非常勤	専従
医師	2名	非常勤	兼務	
看護職員	6名	2名	常勤	兼務
		4名	非常勤	兼務
機能訓練指導員	6名	2名	常勤	兼務
		4名	非常勤	兼務

<在宅部門(ショートステイ)>

職種	人数	常勤 / 非常勤	専従 / 兼務	
管理者	1名	常勤	兼務	
生活相談員	5名	常勤	兼務	
管理栄養士	1名	常勤	兼務	
介護職員	15名	2名	常勤(ユニットL)	専従
		7名	常勤	専従
		3名	常勤	兼務
		3名	非常勤	専従
医師	2名	非常勤	兼務	
看護職員	6名	2名	常勤	兼務
		4名	非常勤	兼務
機能訓練指導員	6名	2名	常勤	兼務
		4名	非常勤	兼務

<在宅部門（居宅介護支援）>

職種	人数	常勤 / 非常勤	専従 / 兼務
管理者	1名	常勤	兼務
介護支援専門員	3名	1名	兼務
		2名	専従

4. 法人及び施設の概要

所在地 京都府宇治市菟道藪里 11 番 3

名称	概要
社会福祉法人マイクロ福祉会	理事長 伊藤 弘子 (平成 25 年 12 月 16 日就任) 副理事長 伊藤 真也 (平成 27 年 12 月 16 日就任) 事務局長 内藤 真 次長 野口 健也
特別養護老人ホームまごころ園 特別養護老人ホーム	施設長 水口 泰貴 事業 ユニット型介護老人福祉施設 定員 80名/8ユニット
特別養護老人ホームまごころ園 ショートステイ	管理者 田中 亜沙美 事業 ユニット型短期入所生活介護 (予防) 定員 20名/2ユニット
まごころ園居宅介護支援事業所	管理者 西田 佳史 事業 居宅介護支援

5. 法人役員（理事 6 名・監事 2 名・評議員 7 名）

役員名	氏名	役員名	氏名
理事長	伊藤 弘子	評議員	内川 中彦
副理事長	伊藤 真也	評議員	奥西 隆三
理事	高辻 滋	評議員	木島 敦
理事	新谷 昭	評議員	高林實結樹
理事	北村 善宣	評議員	福井 輝夫
理事	水口 泰貴	評議員	山崎 絹子
監事	堤 武彦	評議員	萬 守
監事	池本なら義		

※敬称略及び順不同

6. 平成29年度理事評議員会の開催状況

理事会	5月24日	6月13日	9月12日	3月19日
出席理事	6/6名	6/6名	6/6名	5/6名
出席監事	2/2名	2/2名	2/2名	2/2名
議題	1. 事業報告 2. 決算報告 3. 経理規程 4. ストレスチェック 5. 新役員候補 6. 評議員会招集報告	1. 理事長選定 2. 副理事長選定 3. 施設長任命 4. 定款施行細則 5. 各種規程変更 6. 充実計画承認	1. 経理規程改訂 2. 就業規則変更 ※状況報告	1. 事業計画案 2. 事業予算案 3. 賞与借入 ※状況報告

評議員会	6月13日	—	—	—
出席評議員	6/7名	—	—	—
議題	1. 事業報告 2. 充実計画承認 3. 新役員選任 4. 役員報酬規程 5. 各種規程変更報告	—	—	—

7. 評議員選任・解任委員会（監事2名・事務局1名・外部委員2名）

委員名	氏名	委員名	氏名
外部委員	村上 晶子	外部委員	米田 宜正

8. 第三者委員

委員名	氏名	委員名	氏名
第三者委員	村上 晶子	/	/

Ⅱ. 平成 29 年度事業活動報告

1. マイクロ福祉会 法人事業報告

今年度は、当法人の3事業〔特別養護老人ホーム・ショートステイ・居宅介護支援事業〕が、初めて年間を通じて、事業活動収支が見込める年となった。また来期平成30年度は、介護だけでなく医療報酬同時改定を控え、改定の動向を見据えると同時に、社会福祉法人制度改革についても以下のように対応を行なった。報酬改定については、報酬の減算や一部加算廃止などが予測されたことや、2025年問題に向け、地域包括ケアシステムの基盤作りや、社会福祉事業の方向性が示され、多くの研修会に参加したりするなど、改定に備えた。社会福祉法人制度改革については、主に理事会及び評議員会の開催方法や承認事項の改定を行なった点や、社会福祉充実計画や会計監査基準、電子開示システムなどに初めて取り組んだ。3月に実施された宇治市の法人監査では、別段指摘を受ける事無く終了した。収支活動状況は、特別養護老人ホームでは、月毎で見ると大きく落ち込んだ月は無かったが、年間稼働率93.67%と目標値には及ばなかった。これは昨年までの年間退居者数が17~18人だったものから比べ今年度は27人と大幅に増えており、入居時からの中重度者受入れが一つの要因ではないかと考えられる。ショートステイは、全国の平均稼働率を上回っており、年間を通じて6ヶ月は、稼働率90%を超え、2期連続で高稼働となり、順調に推移してきたと言える。居宅介護支援事業は、主任介護支援専門員の配置や介護支援専門員3名体制の確立により、特定事業所加算を申請するなど、今後も収支が大きく崩れる事無く安定した運営を予感させる年となった。

その他、主な取組みは以下のとおりである。

2. 主な取組み

4月 宇治市第一次予防事業に於けるホールの開放

昨年に引続き、宇治市第一次予防事業開催地として、当園交流ホールを開放した。あたまイキイキ教室OB会や歌笑会など盛況で、昨年を上回る人数が集まり、当園を知っていただく機会にもなった。

7月 実地指導受診

14日、京都府山城北保健所からまごころ園の実地指導を受けた。指摘や改善事項等、大きな指摘もなく終了した。

8月 まごころ園夏祭り

8月23日に、第4回まごころ園夏祭り実行委員会が中心となり開催された。昨年に引き続き、実行委員長は理事高辻滋氏、副委員長に評議員内川中彦氏、監査人に監事堤武彦氏が中心となり、総勢約40名の実行委員のご協力を得ることが出来た。第4回まごころ園夏祭りが盛大に行われ、ご利用者様やご家族様、地域の方々を交え、模擬店や催し物で楽しい一日となった。

9月 まごころ園敬老祝賀式

12日、第5回の敬老祝賀式が開かれた。式典では、来賓の岩本利広・府山城北保健所企画調整室室長や、藤田佳也・宇治市健康長寿部部長から、それぞれ祝辞を頂いた。また、祝いの記念品や表彰状が贈られた。

3月 社会福祉法人監査の受診

同15日、宇治市地域福祉課から法人監査を受けた。指摘や改善事項等、大きな指摘もなく終了した。

法人事務局部門目標

【課題1】社会福祉法人制度改革による法令の遵守

＜難易度C＞

京都府老人福祉施設協議会総会研修会、近畿老人福祉施設協議会近畿大会、京都府社会福祉法人経営者セミナーなどへの参加を通じて、社会福祉法人制度改革に対応することが出来た。また、地域における公益的な取組については、社会福祉充実残額の算定上該当しないことから、交流ホールや包括ケア連携相談室などをより活用し、安価で提供しやすいものを策定して行きたい。

【課題2】新卒者の採用5名

＜難易度S＞

結果3名の採用となった。過去3年間を見ても2～3名程度であり、状況は好転したとは言えないが、初めて高等学校卒からの採用が出来たことは、来期へ向け明るい事例となった。その他、毎年採用者が決まる、京都医療福祉専門学校は今年も獲得することが出来た。

【課題3】災害時対策・福祉避難所としての役割

＜難易度C＞

宇治市主催の地域防災研修に参加するなど、宇治市の災害対策に対し、福祉施設として最低限の活動は行えた。今後も、地域へ防災訓練の働きかけなど参加を呼びかけ、福祉避難所としての役割を果たして行きたい。

<就職フェア・求職者との交流会の参加状況>

実施月	内容	主催
6月	FUKUSHI 就職フェア	京都府福祉人材・研修センター
9月	きょうと介護・福祉職場面接会	京都府福祉人材・研修センター
10月	福祉職場合同就職説明会	京都ジョブパーク
11月	南部地域対象 FUKUSHI 就職フェア	京都府福祉人材・研修センター
12月	FUKUJOB きょうと 介護・福祉の仕事相談&面接会	京都府福祉人材・研修センター
3月	FUKUSHI 就職フェア	福祉職場就職フェア実行委員会 (京都府福祉人材・研修センター)

<セミナー・研修等 参加状況>


実施月	研修名	主催
5月	京都府老人福祉施設協議会 総会研修会	京都府社会福祉施設協議会
7月	近畿老人福祉施設協議会 近畿大会 京都府社会福祉法人経営青年会勉強会 京都安全衛生大会	近畿老人福祉施設協議会 京都府社会福祉法人経営者協議会 京都労働局
8月	京都府社会福祉法人経営者セミナー	京都府社会福祉法人経営者協議会
9月	第9回全国認知証グループホーム大会 全国社会福祉法人経営者大会 京都府民間社会福祉施設職員共済会説明会	全国認知証グループホーム協会 全国社会福祉法人経営者協議会 京都府
10月	社会福祉法人運営管理職員研修 全国社会福祉法人経営青年会 全国大会	京都府社会福祉法人経営者協議会 社会福祉法人全国社会福祉協議会
11月	第14回京都老人福祉学会 年末調整説明会	京都府老人福祉施設協議会 宇治税務署
12月	介護経営講習会	株式会社エス・エム・エス
1月	社会福祉法人経営者セミナー	京都府社会福祉法人経営者協議会
2月	近畿社会福祉法人経営者協議会セミナー 社会福祉法人会計実務者決算講座 社会福祉法人事務担当者説明会 山城北ブロック施設長会・研修会 福祉人材・定着セミナー 健康保険組合研修会	近畿老人福祉施設協議会 全国社会福祉法人経営者協議会 宇治市 京都府老人福祉施設協議会 京都府人材サポートセンター 京都府協会けんぽ
3月	きょうと認知症フォーラム 京都府社会福祉法人経営青年会勉強会 京都府老人福祉施設協議会 理事会研修会 介護報酬改定説明会	京都地域包括ケア推進機構 京都府社会福祉法人経営青年会 京都府社会福祉施設協議会 京都府

3. 特別養護老人ホームまごころ園 事業報告

まごころ園事業運営基本方針に対する報告

特別養護老人ホームまごころ園では、中重度者の方の受入と対応が安心安全に行えるよう多職種での連携強化や職員個々のスキルアップの為、内部研修や外部研修に参加し質の向上に取り組んだ。又、短期入所生活介護、居宅介護支援事業所については、地域のケアマネジャーや地域包括支援センター等と連携を図り、地域からの問合せや相談が増加傾向にあることや、短期入所生活介護の利用が増えていることから、地域にとって必要な事業所になりつつあると感じる。引き続き、「地域に必要な施設」「選ばれる施設」づくりを目指す。

<年間行事企画>

月	今期活動結果	内容
4月	お花見	花見ドライブ
5月	端午の節句	兜作りでお祝い
6月	新緑ツアー	新緑ドライブ
7月	七夕	七夕飾り作り
8月	夏祭り(まごころ園夏祭り)	
9月	敬老祝賀式	
10月	運動会	ユニット対抗運動会
11月	紅葉狩り	紅葉ドライブ
12月	クリスマス会・忘年会	ユニットクリスマス会
1月	新年会・初詣	乃木神社へ初詣
2月	節分(恵方巻き作り)	
3月	桃の節句	梅林見学ドライブ

＜地域交流ホール（地域包括ケア連携相談室）開放状況＞

開放先	内容	回数
地域の方	宇治市予防事業 ・あたまイキイキ教室 ・脳活性化教室（歌笑会）	1回/週 1回/月
地域の高齢者	あたまイキイキOB会（カトレア会） あたまイキイキOB会（まごころ楽しみ会） 高齢者涼やかスポット （映画上映会/演奏会/夏祭り 等） 介護の日イベント	1回/月 1回/月 2日間 1日間
宇治幼稚園	園児との交流会（6月・10月）	2回/年
地域のサークル	ヨガサークル	2回/月

＜施設見学状況＞

団体名	延べ人数	内容	回数
就職希望者向け施設見学	22	施設見学・概要説明 等	9

＜ボランティア受入状況＞

団体名	年間回数	1回当り 来所人数	参加 延人数
京都医療福祉専門学校	2	1	2
爽快治療院	12	2	24
ブルーリッチマウンテンボーイズ	1	6	6
宇治声香クラブ	1	6	6
明星の会	1	5	5
アップルパイ	1	5	5

＜実習受入状況＞

団体名	実習内容	年間回数	参加延人数
京都医療福祉専門学校	社会福祉士実習	2	4
京都栄養医療専門学校	管理栄養士実習	1	1
介護労働安定センター	介護実務者研修実習	1	1
介護福祉士会	介護支援専門員実習	1	2

＜職員内部研修＞

実施月	研修内容	講師
4月	新入職者研修 就業規則・法令遵守 消防計画・消防訓練	理事長・副理事長・施設長・施設課長 法人事務局 施設長・東消防署
5月	介護保険制度 事故発生等緊急時対応	施設課長 看護主任

6月	苦情対策研修 接遇とマナー研修	相談援助主任 施設課長
7月	福祉用具	施設課長
8月	身体拘束廃止	施設課長
9月	非常勤職員研修会 事故対応研修	施設課長 施設課長
10月	正職員研修会	施設課長
11月	緊急時対応研修 感染症予防研修	施設課長 看護主任
12月	高齢者虐待防止 接遇とマナー研修 介護・車両事故対応 感染症予防研修 消防訓練	施設課長 法人事務局 施設課長 看護主任 施設長・東消防署
1月	認知症研修	施設課長
2月	高齢者虐待防止	施設課長
3月	介護保険法改正	施設長

<職員外部研修>

実施月	研修名	主催	参加者 人数
5月	新任職員研修	京都府老人福祉施設協議会	2
6月	施設看取り専門研修	京都府老人福祉施設協議会	2
7月	面談者研修	株式会社エイデル研究所	1
	管理職研修	株式会社エイデル研究所	2
	指導職研修	株式会社エイデル研究所	1
	中堅職員研修	株式会社エイデル研究所	3
	OJT 推進者研修	株式会社エイデル研究所	1
9月	全国認知症グループホーム大会	全国認知症グループホーム協会	8
	中堅職員研修	京都府老人福祉施設協議会	2
10月	社会福祉施設職員等研修	京都府社会福祉協議会	1
11月	第14回京都老人福祉学会	京都府老人福祉施設協議会	4
12月	災害時対応研修	南山城学園	1
1月	介護福祉事業所と地域の繋がり	京都ボランティア協会	1
3月	高齢者虐待防止トレーナ養成基礎研修	京都府老人福祉施設協議会	

4. サービス事業成果 / 特別養護老人ホーム

特別養護老人ホームの重点課題に対しての報告として

【課題1】 入居利用率 99% 稼働率 95% 平均要介護度 3.8 現状の算定加算項目の継続

年間入居率 99.2%、年間稼働率 93.6%、平均要介護度 3.6 であった。また、加算項目は継続して算定できている。退居後の平均空床日数は約 8 日で、速やかなご入居に努めたが、10 月以降、開所後間もなくに入居された方や、また、重度化に伴っての退居が連続した。今後も入居待機者を確保する体制を維持し、適切な援助による入院者の減少に努めていく必要がある。

【課題2】 安定した入居に向けて介護の専門性を高め、重度化対策、リスクマネジメントの徹底を図る

常勤・非常勤ともに、そのキャリアに応じた研修に参加することができた。来年度の課題は、いかにして得たものを現場にフィードバックしていくかであり、人材育成の一環として、研修参加者の伝達講習も活発に行っていく。組織図の見直しにより介護主任が設置され、より介護職員とのコミュニケーションが密になり、評価の透明性が図れ、結果として職員の意識向上に繋がった。事故対策委員会での分析をもとに各ユニットが創意工夫を凝らして事故の再発防止に取り組み、ヒヤリハット報告書の件数が増えた。そのことで「気づき」の目が養われ、多くの事故を予見し、未然に防ぐことができた。

【課題3】 適切な健康管理と医療の提供を行う

医務内の申し送りは、電子カルテや申し送り表を併用して伝達漏れのないように周知徹底に努め、継続して統一したケアを入居者様に提供できるように図った。また、体調不良者があれば適宜、施設医師に報告、指示を仰ぎ、病態が重度化して入院することを防止した。看護職・介護職・栄養士間で情報を共有し、必要なケアを実践することで褥瘡の予防に努め、深刻な褥瘡は発生していない。

【課題4】 まごころ園で安心して過ごして頂く

施設医師や提携医療機関と調整し、できる限り当園での生活を継続していただけるような援助に努めたが、看取り介護を含めた新たなサービスによって対応力を向上する必要がある。

<入居者状況> (定員：80名) (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

期首在居	期中入居	期中退居	期末在居	期中延数 (外泊含まず)	1日平均 在所数	在籍中 入院延数
80	26	27	80	27,356	74.9	1,581

<年齢別/男女別> (平成30年3月31日現在)

	男性	女性	計
40歳～64歳	0	0	0
65歳～69歳	1	0	1
70歳～74歳	0	2	2
75歳～79歳	1	3	4
80歳～84歳	3	13	16
85歳～89歳	0	20	20
90歳～94歳	2	21	23
95歳以上	1	13	14
合計	8	72	80

最高齢：102歳 平均年齢：88.1歳

<介護度別/男女別>

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男性	0	1	3	3	1	8
女性	0	8	25	26	13	72
計	0	9	28	29	14	80

平均要介護度：3.6

5. サービス事業成果 / ショートステイ（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）

短期入所生活介護（介護予防含む）の重点課題に対する報告として

【課題1】 利用率90%以上の継続

稼働状況として、平均88%台までこれたが、毎月90%以上にはできなかった。ロング利用の方の入所・入院等で、予約を95%維持は現状厳しい状態ではあったが、今後予約の時点で90%は超えているように調整を行う。緊急利用や、延長希望等、空きがあれば対応できる状態になってきたため、今後も予約状況を密にお知らせしながら、頼みやすい関係づくりに努める。

【課題2】 ケア・質の統一と向上

申送りや決定事項の継続性に欠けたため、現在複数冊ある申送りノートをもとに1冊にまとめ、内容が確認しやすくなることで情報共有・周知の向上を図る。会議の継続性に欠けたため、今後奇数月に会議を行い、全職員の意見や考えの共有・統一を図る。介助における基礎的な技術・知識が不足している。資料・技術研修による習得を図り事故の防止やケアの質の向上を目指す。

【課題3】 まごころ園ショートステイならではの売りの強化

レクリエーション実施者のバラつきが現在もあったため、今後は各職員が各々の得意とするレクリエーションや活動をリストアップし、それを共有する。どの職員も強みや持ち味があることを自覚し積極的に活動を企画するように促す。ご利用者様のニーズ把握も職員にバラつきがあったことから、日勤リーダーがその日のご利用者様に合わせた、レクリエーションを決め、それを得意とした職員が担当となる。一部の職員に頼りがちにならない雰囲気をつくる。

<利用状況> (定員：20名) (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

区分	介護						予防			合計
	要介護5	要介護4	要介護3	要介護2	要介護1	小計	要支援2	要支援1	小計	
利用延日数	130	1,022	2,209	1,771	1,211	6,343	135	7	142	6,485

※契約件数・・・平成30年3月31日現在、418件（うち利用件数159件）

<利用者年齢>

	男性	女性	計
40歳～64歳	1	1	2
65歳～69歳	1	3	4
70歳～74歳	4	4	8
75歳～79歳	7	5	12
80歳～84歳	13	18	31
85歳～89歳	10	23	33
90歳～94歳	11	25	36
95歳以上	5	24	29
合計	52	103	155

<介護度別/男女別>

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男性	1	3	9	16	15	8	0	52
女性	0	4	23	27	29	15	5	103
計	1	7	32	43	44	23	5	155

6. サービス事業成果 / 居宅介護支援

居宅介護支援の重点課題に対する報告として

【課題1】担当ケース数 35 件/人を維持する

契約ベースで、要介護 88 件, 要支援 34 件の計 122 件で、一人あたりも 35 件となっている。ただ、現状維持の為に最近まで新規の受け入れをある程度断っていたこともあり、新規依頼が以前より減っている。ただ、現在も 3~4 包括との関わりは持つようにしており、新規ケース受け入れの問い合わせ自体は、包括訪問時等によく話をして頂けている。今後もケースの終了が多い時期にも対応できるよう、出来る限り包括との繋がりを継続して持ち続けると共に、新規依頼も出来る限り断らずに対応できるよう、体制を整えていく。

【課題2】職員の質を向上すると共に、特定事業所加算を継続して取得する

特定事業所加算の維持に必要な毎週の会議や遵守記録の作成を欠かさず行っており、職員の質の向上の為に、研修計画を基に都度職員が参加している。担当者会議やモニタリングもきっちり行っており、減算対象はない状態である。本年度は居宅や個人の質の向上の為に、自主点検や第三者評価の内容確認も行った。今後も都度必要な研修には出来る限り参加していくと共に、特定事業所加算取得が継続できるよう、必要な内容を継続して行っていく。

【課題3】地域の方々や関係する方々の信頼を得る

各種制度等の情報や知識は、現在も研修等への参加を行っていると共に、成年後見制度に関しても、ケースを通じて知識を深め、研修にも参加した。また新規ケースや相談時等には、介護保険についての説明を行うと共に、できる限り親身になって話を聞くよう対応する。緊急時には、できる限り早期対応を行っていると共に、担当職員不在の際でも、他の職員が対応を行ったりしている。地域ケア会議にはできる限り全員出席するようにしており、困難事例等の時には、包括や行政等と連携を図ったりもしている。今後も地域の方々からの信頼を深めていく為に、ケース一つ一つに真摯に対応しながら連携を図り、信頼を深めていけるように努める。

<利用者状況>

期間	利用者数	
	要介護	要支援
平成 30 年 3 月 31 日 現在	94 件	34 件

<職員研修・勉強会>

実施月	研修名	主催	参加者 人数
4 月	京都府認定調査員初任者研修	京都府	2
5 月	宇治市の行政施策	宇治市福祉サービス公社	2
6 月	ケアプラン点検	宇治市福祉サービス公社	1
	ケアマネジメントに関する勉強会	宇治市	3
8 月	認知症ケアについて	宇治市福祉サービス公社	2
9 月	日本認知症グループホーム大会	日本認知症グループホーム協会	2
	東宇治南圏域小地域包括ケア会議	東宇治南地域包括支援センター	3
10 月	地域包括ケア時代の在宅医	宇治久世医師会	1
	設立記念講演会	やましろ認知症地域ケア連携協議会	1
	ケアマネジメントに関する勉強会	宇治市	3
	成年後見講座	市民後見センターきょうと	1
11 月	病気の知識、薬の知識	宇治市福祉サービス公社	3
	認知症ケアスーパー人材養成研修	認知症ケアを考えるワーキンググループ	1
12 月	東宇治南圏域小地域包括ケア会議	東宇治南地域包括支援センター	3
	精神に障害のある人と共に生きる	宇治市福祉サービス公社	1
1 月	京都府認定調査員初任者研修	京都府	1
2 月	障害福祉サービスと 介護保険サービスとの連携	宇治市福祉サービス公社	1
3 月	認定調査について	宇治市	2